

AIを活用したペルソナ未来予測分析

－共同研究報告書－

2021年（令和3年）3月

京都大学こころの未来研究センター
株式会社日立製作所
福山市

目次

1 未来予測分析の目的と特徴

未来予測分析の目的、特徴
シミュレーションの全体フロー

2 情報収集ステージ

対象とするペルソナの設定
ペルソナ意識の抽出
定量モデルの係数設定・構築

3 選択枝検討ステージ

シナリオ列挙
シナリオの評価

4 戦略選択ステージ

分岐構造解析
分岐要因解析

5 未来予測分析のまとめと今後の課題

未来予測分析のまとめ
未来予測分析を踏まえた方向性
未来予測分析の注意点・今後の課題

1-1 未来予測分析の目的

- 京都大学と(株)日立製作所（日立京大ラボ）では、AIを活用した未来予測手法を開発し、これまで、文部科学省や長野県などと連携して、社会や都市の持続可能な未来の実現に向けた政策提言を行ってきた。
- これらの結果、日本社会の未来の持続可能性にとって、東京一極集中に象徴されるような「都市集中型」か「地方分散型」かという選択において、後者が、人口・地域の持続可能性や格差、健康、幸福といった点で優れていた。「都市集中から地方分散へ」という方向こそが、アフター・コロナの日本社会を考えていく上で重要な軸となると考えられる。
- また、「分散型」の方向性は、社会や都市のみでなく、個人の生き方や人生のデザイン全体を含む、包括的な意味での「分散型」社会であることが望ましい。
- 福山市は、2018年（平成30年）から**人口減少対策にペルソナマーケティングの考え方を導入**。人口動態に係る課題を統計調査から分析し、進学、就職など社会増減の起こるタイミングと、専業主婦、共働きなどライフスタイルの違いを踏まえた**9つのペルソナ像を設定**。それぞれの満足度を高めるための**アクションプランに取り組んでいる**。
- 人生のデザインにおける「分散型」の視点で、未来予測手法を活用するため、福山市のペルソナマーケティングを導入した人口減少対策に着目。
- このたび、福山市・京都大学・(株)日立製作所が連携し、ペルソナに起こり得る未来を予測することで、より効果的な施策のポイントを明らかにしながら、**人口減少対策の次期アクションプランの作成につなげる**。

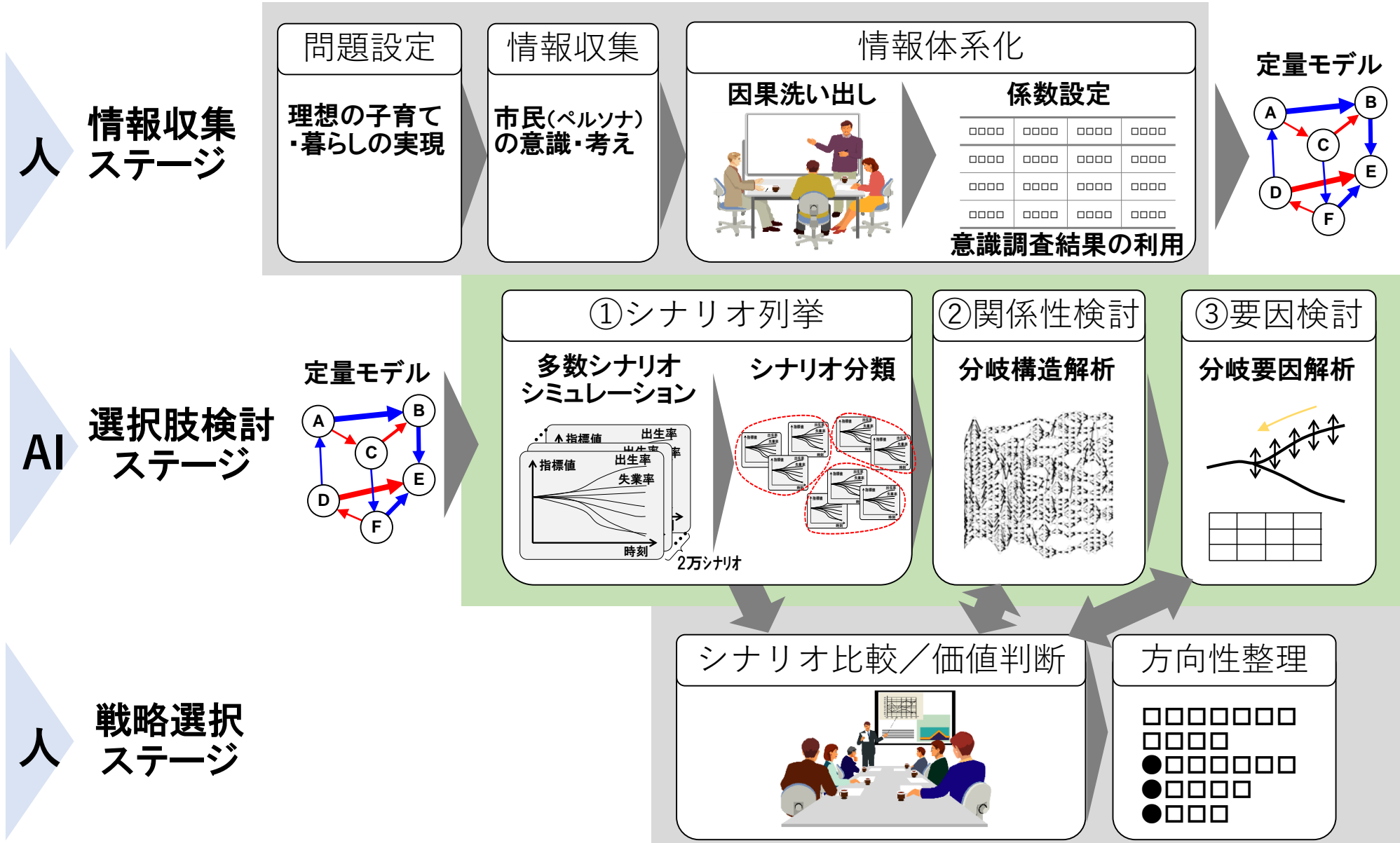
1-2 本未来予測分析の特徴（今回の研究）

- 今回の分析は、従来の行政目線のシミュレーションと違い、**ペルソナ目線に着目した全国初の取組**

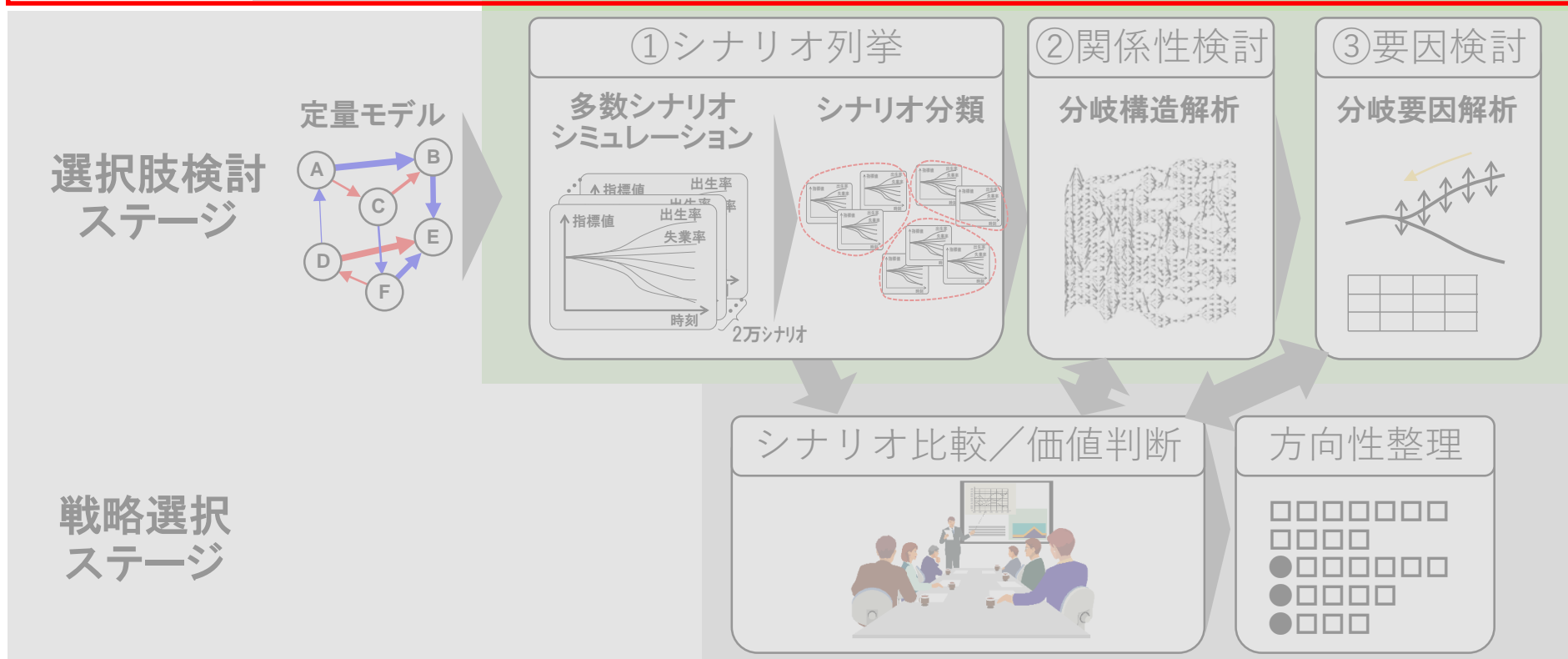


今回の研究は、「ペルソナにとっての最良な未来に導くために何を達成していくべきか」について **ペルソナの目線で具体的に検討**することが特徴的です。

1-3 シミュレーションの全体フロー



2-1 情報収集ステージ（モデル作成）



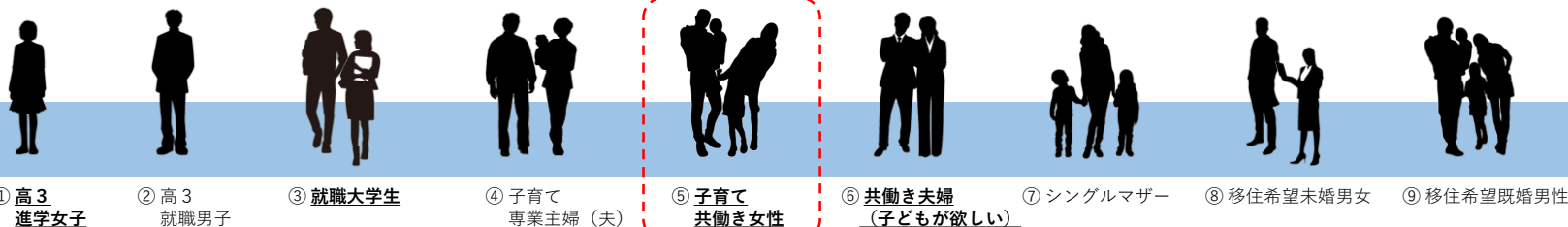
2-2 情報収集ステージ 「対象とするペルソナの設定」

- 9つのペルソナから、重点ペルソナであり、人口減少対策の指標である「出生率」への影響が大きい「子育て共働き女性」を選出 ⇒ 子どもの数について、2人から3人目にかけて壁がある。

※希望する子どもの数（就学前児童保護者）理想：59.1%「3人以上」、34.9%「2人」 現実：57.8%「2人」、30.6%「3人以上」
福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査（2018年）

人口減少対策における 9つの ペルソナ

※下線・太字
重点的に取り組むペルソナ



A | 予測の対象

3人目を考えている25~39歳 子育て中の共働き女性



A. 3人目を考えているけど、経済面な不安だけでなく、夫の育児へのサポートにも不満。

B. 夫の会社は休暇制度が充実していないくて、子どもの体調不良などで休むのはいつも私。

DATA（一部）

理想の子どもの人数をもつための条件（MA）（既婚女性）

- (1位) 出産や子育てに対する配偶者やパートナーの協力：79.7%
 - (2位) 子どもの医療費や保育費用などの負担軽減：58.0%
 - (3位) 子どもの教育費の負担軽減：55.1%
- 【市政に対するニーズ把握のための定量調査】（2018年）

育児休業を取得していない理由（MA）（父親）

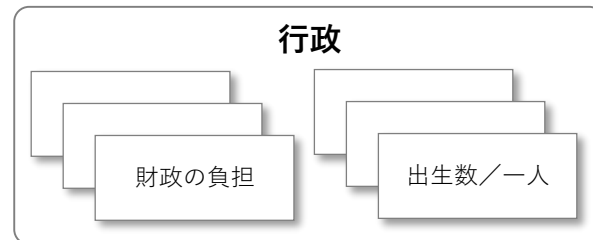
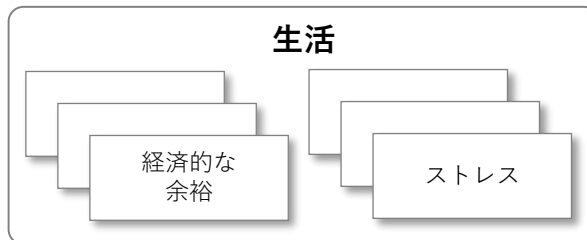
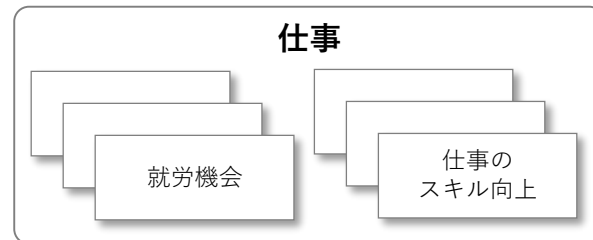
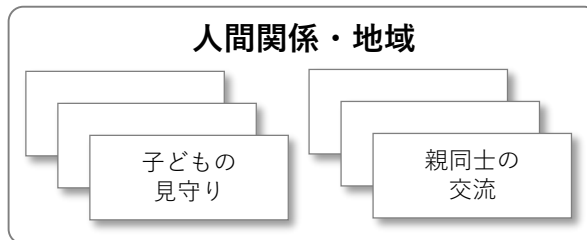
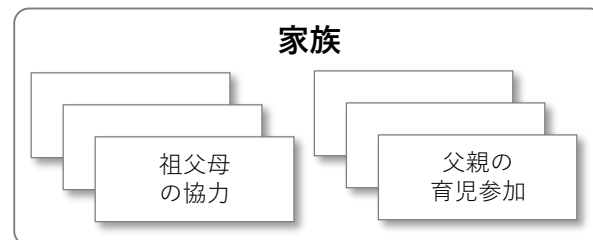
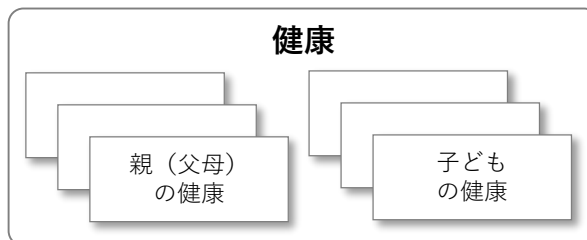
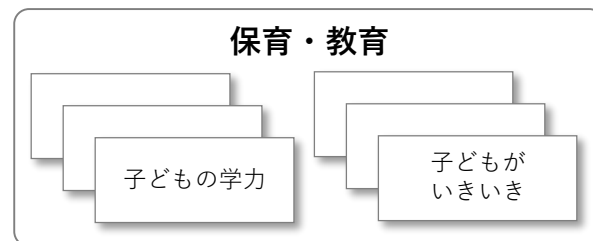
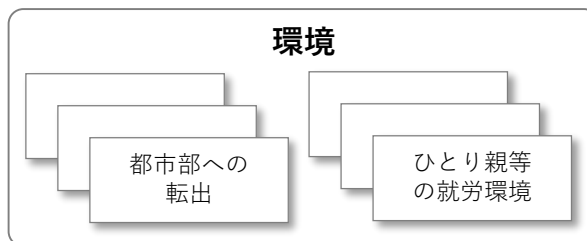
- (1位) 仕事が忙しかった：31.5%
 - (2位) 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった：29.7%
- 【福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査】（2018年）

「ペルソナ未来予測ワークショップ」を実施（ライフスタイル応援会議特別企画） 2020年2月

参加者：ライフスタイル応援会議委員、当会議の構成団体の従業員等（子育て共働き女性など）

2-3 情報収集ステージ 「ペルソナ意識の抽出」

- ペルソナの意識や考え（キーワード）を抽出し、ペルソナに影響する各分野におけるキーワード間の因果関係を整理



2-4 情報収集ステージ 「係数設定」

- 係数の信頼性を確保するため、子育て世代等を対象としたアンケート調査の結果から、各相関（エッジ）に係数を付与。意識の強度に根拠を持たせた。
 - ・ 強度（相関関係）とその信頼度（ばらつき）
 - ・ 時間遅れとその信頼度（ばらつき）

○ 係数設定の例

符号	From	To	線形	遅延[m]	線形・ばらつき[σ]	遅延・ばらつき[±m]
+	祖父母の協力	子どもの居場所	0.277	1	0.13	0.5
+	父親の育児参加	理想の子どもの数	0.288	24	0.144	12
+	職場で育休などを理解する風土	母親の育休取得	0.15	2	0.07	1
-	子育ての不安	子育てで感じるしあわせ	0.557	6	0.278	3

関連調査

- ・ 日頃、子どもをみてもらえる親族・友人・知人の有無（MA）

日常的に親族にみてもらえる：27.7%

【福山市子ども・子育て支援事業計画に関するニーズ調査】（2018年）

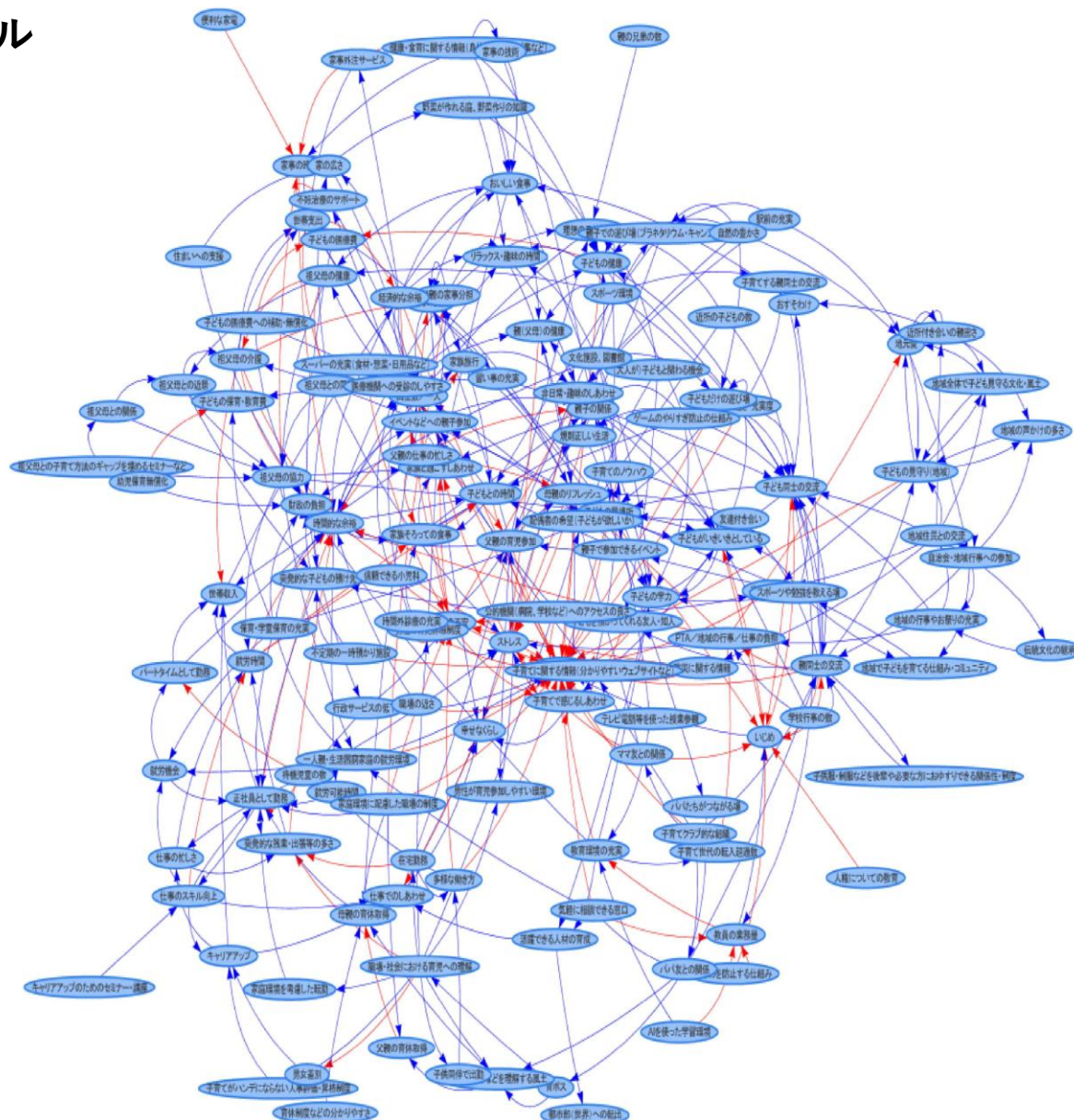
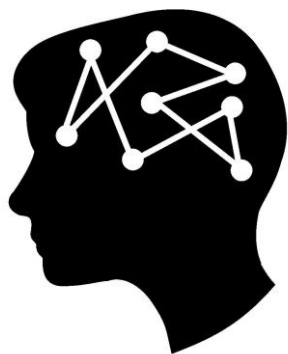
○ 構築したペルソナの定量モデル

指標数：143

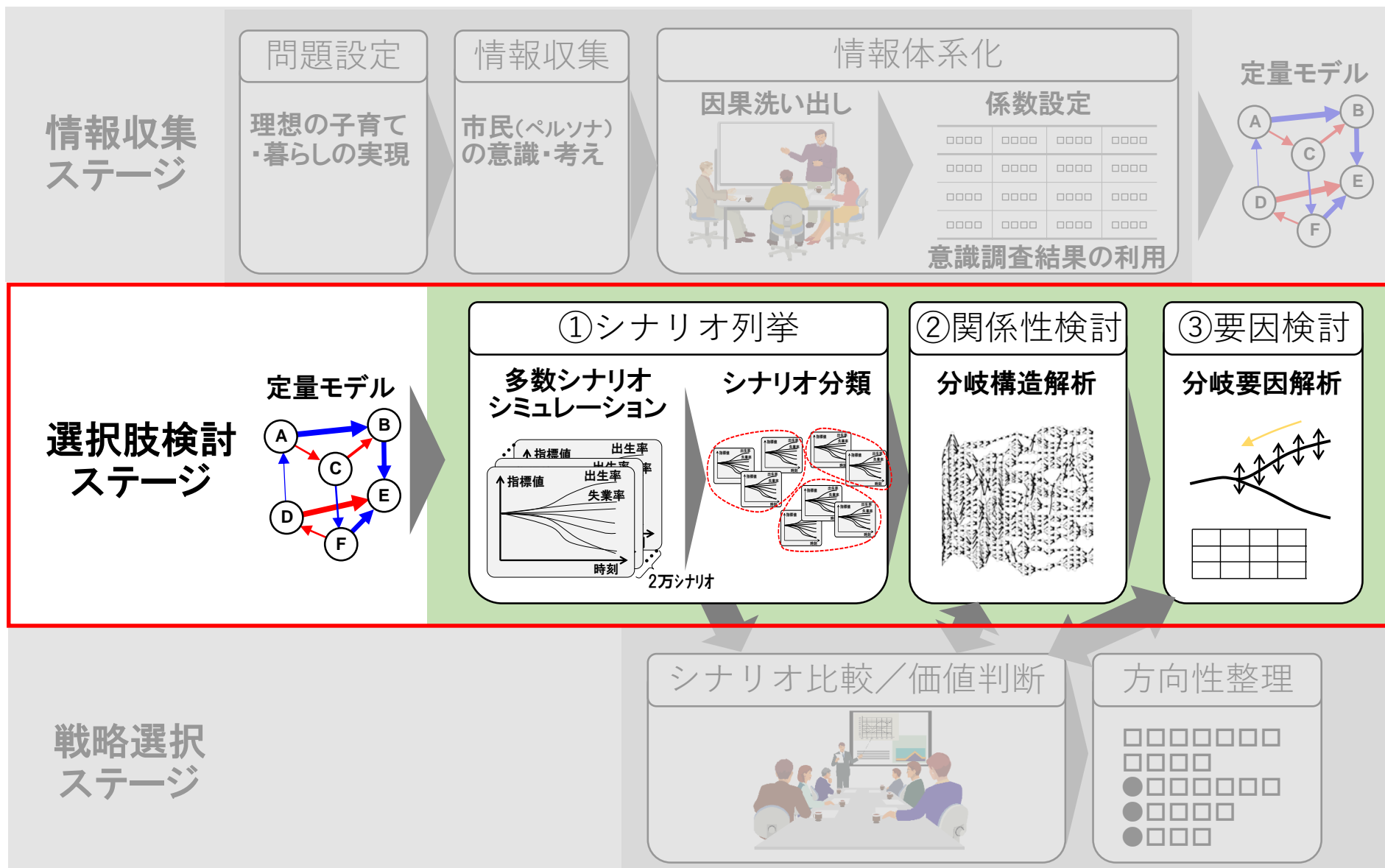
相関（エッジ）数：443

青線：正の関係性

赤線：負の関係性



3-1 選択肢検討ステージ



3-2 選択肢検討ステージ「シナリオ列挙」

○ AIを活用したシナリオ列挙プロセス

- ・人が思い描けるシナリオには限界があるため、AIの活用により、ペルソナに起こり得るシナリオ（未来）を、抜け／偏りなく列挙

○ 多数シミュレーション機能

目的：将来起こり得るシナリオを漏れなく列挙

方法：作成したモデルをもとに、指標を一定の範囲で変化させるシミュレーションを1か月ごとに実行し、毎月シナリオを2万通り抽出



○ シナリオ分類機能

目的：偏りのない代表シナリオを抽出

方法：2万通りのシナリオについて、指標の動きが類似しているシナリオを分類（類似シナリオのグループ化）

上記のサイクルを2021年～2051年（30年間）にかけて繰り返し、最終的に**8つの類似シナリオグループに分類**

3-3 選択肢検討ステージ「シナリオの評価方法」

- 8つのシナリオグループについて、シミュレーション結果（2051年における各指標の変化率）をもとに、重要と思われる指標の動きや全体的な傾向などを総合的に評価し、分野別に3段階（○、△、×）で評価

○ 評価方法の例（人間関係・地域）

変化の大きい指標を色付け（良好：赤、悪化：青）※一部、指標を省略

⑤人間関係・地域																			
	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	
	親同士の交流	近所付き合いの親密さ	近所の子どもの数	子ども同士の交流	子どもの見守り(地域)	子どもを預かってくれる友人・知人	自治会・地域行事への参加	地元愛	地域住民との交流	地域全体で子ども見守る文化・風土	地域で子どもを育てる仕組み・コミュニティ	地域の行事やお祭りの充実	地域の声かけの多さ	通学路の安全	友達付き合い	パパたちがつながる場	パパ友との関係	ママ友との関係	母親のリフレッシュ
グループ 1	-0.04714	-0.00029	0.00097	-0.41397	0.01405	0.00082	0.00884	0.01085	0.00515	0.00613	-0.00629	0.00329	0.00736	0.04254	-0.11706	-0.00690	-0.00289	0.00418	-0.09964
グループ 2	-0.09178	0.00626	0.00159	-0.30569	0.03300	0.00680	0.00818	0.00607	0.00892	0.01457	-0.00466	0.00137	0.03079	0.05274	-0.10126	-0.00538	-0.00316	0.00230	-0.07373
	-0.14370	-0.00461	0.00088	-0.12877	-0.03194	0.01332	-0.00755	0.01132	-0.00234	-0.00017	-0.00060	-0.00310	-0.01878	0.02963	-0.04752	0.00282	-0.00018	-0.00616	-0.18497
	-0.08549	-0.01031	0.00274	-0.07829	-0.01983	0.03184	-0.00795	-0.00229	-0.00468	-0.00184	0.00147	-0.00374	-0.02454	0.02664	-0.02784	0.00169	0.00003	-0.00592	-0.17399
	-0.16760	0.00633	0.00330	0.02701	0.00708	-0.02857	-0.00570	0.01923	-0.00088	0.00175	-0.00211	-0.00071	0.00480	0.03622	-0.09268	0.00349	-0.00455	-0.00373	-0.16611
グループ 3	-0.17414	0.00310	0.00321	-0.08457	-0.00623	-0.00486	-0.00783	0.00906	-0.00332	0.00177	-0.00133	-0.00406	-0.00769	0.02723	-0.04744	0.00183	-0.00438	-0.00415	-0.17987
	-0.19589	0.00554	0.00274	-0.00153	-0.01942	-0.00778	-0.00753	0.01268	-0.00166	-0.00005	-0.00297	-0.00348	-0.00349	0.01386	-0.06906	0.00172	-0.00405	-0.00373	-0.19338
	-0.20422	0.00185	0.00377	-0.07733	-0.00173	-0.01415	-0.00682	0.00556	-0.00202	0.00119	-0.00437	-0.00183	-0.00853	0.03036	-0.05128	0.00195	-0.00177	-0.00251	-0.17051
グループ 4	0.00015	-0.00169	-0.00161	-0.13137	0.00552	-0.03086	-0.00505	-0.01389	-0.00146	-0.00385	-0.00830	-0.00466	-0.00266	0.04578	-0.01665	-0.00426	-0.00229	0.00271	-0.03790
グループ 5	0.04717	0.01777	0.00462	0.18800	0.08581	-0.02358	0.00624	0.03880	0.00563	0.02403	0.01462	-0.00255	0.02057	0.05518	0.03822	-0.00713	0.00135	-0.00254	0.12772
	0.11614	0.01183	0.00644	0.23120	0.10598	-0.01027	-0.00354	0.00640	0.00341	0.02298	0.01529	-0.00472	0.00729	0.06405	0.01175	-0.00837	-0.00147	-0.00245	0.02847
	0.04717	0.01748	0.00468	0.19387	0.08658	-0.02254	0.00664	0.03734	0.00538	0.02194	0.01450	-0.00266	0.02029	0.05561	0.03763	-0.00731	0.00113	-0.00224	0.12990
グループ 6	-0.09555	-0.00164	-0.00217	-0.28371	0.01246	-0.10276	-0.00315	0.01228	-0.00051	0.01348	-0.01121	-0.00329	0.01865	0.01177	-0.01832	-0.00626	0.00203	0.00357	0.00329
	-0.09818	-0.00307	-0.00333	-0.30721	0.00812	-0.10132	-0.00046	0.01038	0.00100	0.01311	-0.01295	-0.00240	0.01805	0.01017	-0.00253	-0.00531	0.00036	0.00470	0.01114
	-0.15141	0.00315	-0.00204	-0.25522	-0.00478	-0.09372	-0.00112	0.00783	0.00031	0.01553	-0.01126	-0.00429	0.02267	-0.00251	-0.01375	-0.00768	0.00237	0.00532	0.01938
グループ 7	-0.16039	0.00720	-0.00209	-0.34716	0.01412	-0.04794	-0.00009	0.00514	-0.00026	0.02612	-0.01004	-0.00324	0.02054	0.01549	0.03119	-0.00663	-0.00114	0.00447	0.02210
グループ 8	-0.04265	0.00920	0.00369	0.09868	0.05873	-0.07113	0.00409	0.03803	0.00137	0.02833	0.00580	-0.00693	0.04662	0.04258	-0.02401	-0.00238	0.00478	-0.00091	-0.01952
グループ 8	-0.38212	-0.01074	0.00004	-0.02785	-0.07742	-0.02039	-0.00750	-0.04893	-0.00659	0.00157	0.00614	-0.00285	-0.02443	-0.01687	-0.12057	-0.00222	0.00386	0.00738	-0.05128
	-0.33731	-0.01387	-0.00094	-0.05108	-0.08554	-0.02271	-0.00509	-0.04446	-0.00733	0.00341	0.00422	-0.00276	-0.03482	-0.01004	-0.10613	-0.00014	0.00441	0.00717	-0.05039
	-0.14106	-0.01054	-0.00044	0.17523	-0.06994	0.02420	-0.00550	-0.04013	-0.00770	0.00230	-0.00139	-0.00175	-0.02085	-0.01853	-0.04214	-0.00078	0.00727	0.00567	-0.11908
	-0.09877	-0.01623	0.00076	0.17990	-0.10661	0.01586	-0.00670	-0.05818	-0.00332	-0.00937	0.00071	-0.00083	-0.03511	-0.00033	-0.09489	-0.00102	0.00233	0.00576	-0.07651
	-0.13079	-0.01153	0.00170	0.20848	-0.07255	0.00966	-0.00687	-0.04893	-0.00336	-0.00790	-0.00009	0.00042	-0.01843	0.01360	-0.08132	-0.00314	0.00162	0.00687	-0.06378
	-0.13557	-0.01310	0.00372	0.21461	-0.09462	0.03416	-0.00672	-0.05477	-0.00436	-0.00027	0.00399	-0.00250	-0.03244	-0.00640	-0.06828	-0.00149	0.00014	0.00558	-0.08193

3-4 選択肢検討ステージ 「シナリオの評価結果」

○ 30年後のペルソナに起こり得る未来 ※現在の環境に変化が生じないことを条件に予測

(三段階評価：○、△、×)

	①環境	②保育・教育	③健康	④家族	⑤人間関係・地域	⑥仕事	⑦生活	⑧行政	シナリオグループの特徴	出生数／一人
グループ1	△	×	△	○	△	△	○	△	【子育て環境】女性の社会進出が進み、男性は育児参加している。 【仕事】共働き家庭が増えることで、世帯収入が増え、経済的な余裕が生まれている。 【幸福度】家族や子育てで感じる幸福度が高まるものの、母親はストレスを感じている。 【財政負担】変化ない。	↓
グループ2	△	△	×	△	△	△	×	×	【子育て環境】祖父母の協力などにより子育てしており、男性の育児参加は進んでいない。 【仕事】女性活躍の機会(正規雇用など)が創出出来ておらず、世帯収入が少なく、経済的な余裕がない状況 【幸福度】家族や子育て、趣味など全般的に低下し、母親はストレスを感じている。 【財政負担】行政の財政負担は増えている。	↓
グループ3	△	×	×	△	△	△	△	△	【子育て環境】教育環境などに課題があり、子育てに不安を抱えている。 【仕事】正社員として勤務し、仕事のスキルは向上しており、生活の不安は少ない。 【幸福度】非日常・趣味などプライベートの幸福度は低下し、母親はストレスを感じている。 【財政負担】変化ない。	→
グループ4	△	△	△	○	○	△	○	○	【子育て環境】男性が育児参加しやすい環境が整い、父親の育児参加が進んでいる。近所付き合いを含め地域全体で子どもを育てる風土が向上。母親のリフレッシュにつながっている。 【仕事】仕事のスキルが向上し、就労時間が抑えられている。生活への不安はない。 【幸福度】家族と過ごす幸福度は高い。仕事や非日常・趣味の幸福度はやや低い、リフレッシュはできている。 【財政負担】変化ない。	↗
グループ5	△	×	△	○	△	×	○	○	【子育て環境】教育環境など子育て環境に課題がある。地域全体で子どもを見守る風土は向上しており、地域に愛着を持っている。 【仕事】就労機会は少なく、女性の社会進出は進んでいない。 【幸福度】経済的にも、時間的にも余裕があり、非日常・趣味の幸福度が高く、母親がリフレッシュできている。 【財政負担】変化ない。	↗
グループ6	△	△	△	△	△	×	○	○	【子育て環境】教育環境など子育て環境に課題がある。地域全体で子どもを見守る風土は向上しており、男性が育児参加しやすい環境も整っている。 【仕事】女性の社会進出はそこまで進んでいない。 【幸福度】世帯収入は増え経済的に余裕があり、非日常・趣味の幸福度が高く、母親がリフレッシュできている。 【財政負担】変化ない。	↗
グループ7	△	△	△	△	○	△	○	△	【子育て環境】子どもの学びの場が充実しており、地域全体で子どもを見守る風土も向上している。地元愛も強い。 【仕事】女性の社会進出はそこまで進んでいない。 【幸福度】世帯収入は増え経済的に余裕があり、非日常・趣味の幸福度が高いものの、母親はストレスを感じている。 【財政負担】財政の負担は改善される。	↓
グループ8	△	○	△	○	△	△	△	×	【子育て環境】男性が育児参加しやすい環境は整い、父親の育児参加が進んでいる。近所付き合いや地域の見守りなどは低下 【仕事】女性の就労機会は大きく変わらないが、仕事での幸福は感じている。 【幸福度】家族や子育て、仕事での幸福度が高く、夫婦や親子の関係も良好。ストレスもない。 【財政負担】財政の負担が増大し、行政サービスが悪化	→

3-5 選択肢検討ステージ「シナリオの分析・選択」

○ シナリオ分析

- 8つのシナリオは大きく3つに区分できる。

【グループ1】

ペルソナ（子育て中の共働き女性）は社会で活躍しているが、**出生数は減少**している。

【グループ3、4、5、6】

ペルソナが社会で活躍している状況はグループにより差があるが、**出生数は維持・増加**

【グループ2、7、8】

男性の育児参加、祖父母や地域のサポート体制は充実するが
ペルソナの社会での活躍は少なく、出生数は減少

○ シナリオ選択

- 本分析の対象である「子育て中の共働き女性」は、「3人目の子どもが欲しい」「もっと夫に子育てに参加してほしい」「子育てと仕事を両立したい」と思っているペルソナである。
- そのため、シナリオの選択にあたっては、

ペルソナが満足するライフスタイルに近い

グループ4（**出生数が増加する、男性の育児参加が進む、女性が活躍する** など）
が望ましい。

【参考】社会全体の分析

※2050年に向けた、ポストコロナの日本社会

- 当分析はペルソナ視点による分析であり、社会全体として持続可能なまちづくりを行うための視点も必要。市民（ペルソナ）と社会、それぞれの視点から最適なシナリオを検討することが必要

ポストコロナ社会のAIシミュレーション

- 「2050年に向けた、ポストコロナの日本社会」に関するシミュレーションと、望ましい未来に向けて必要となる政策についての分析と提言（京都大学広井研究室、日立コンサルティング等の共同研究）から望ましいシナリオを考察

【分析・提言内容】

- **女性の活躍**という点を含めて、これまでの日本における従来型の“単線的”な働き方や生き方のモデルにとらわれない、いわば**包括的な意味での「分散型」社会への移行が、出生率低下ないし人口減少をめぐる状況の改善**にとっても、また**東京と地方のバランスのとれた発展**にとっても、最も重要な要因

ポイントとなる政策要因（強化施策の候補）

○ 多様で柔軟な働き方の促進

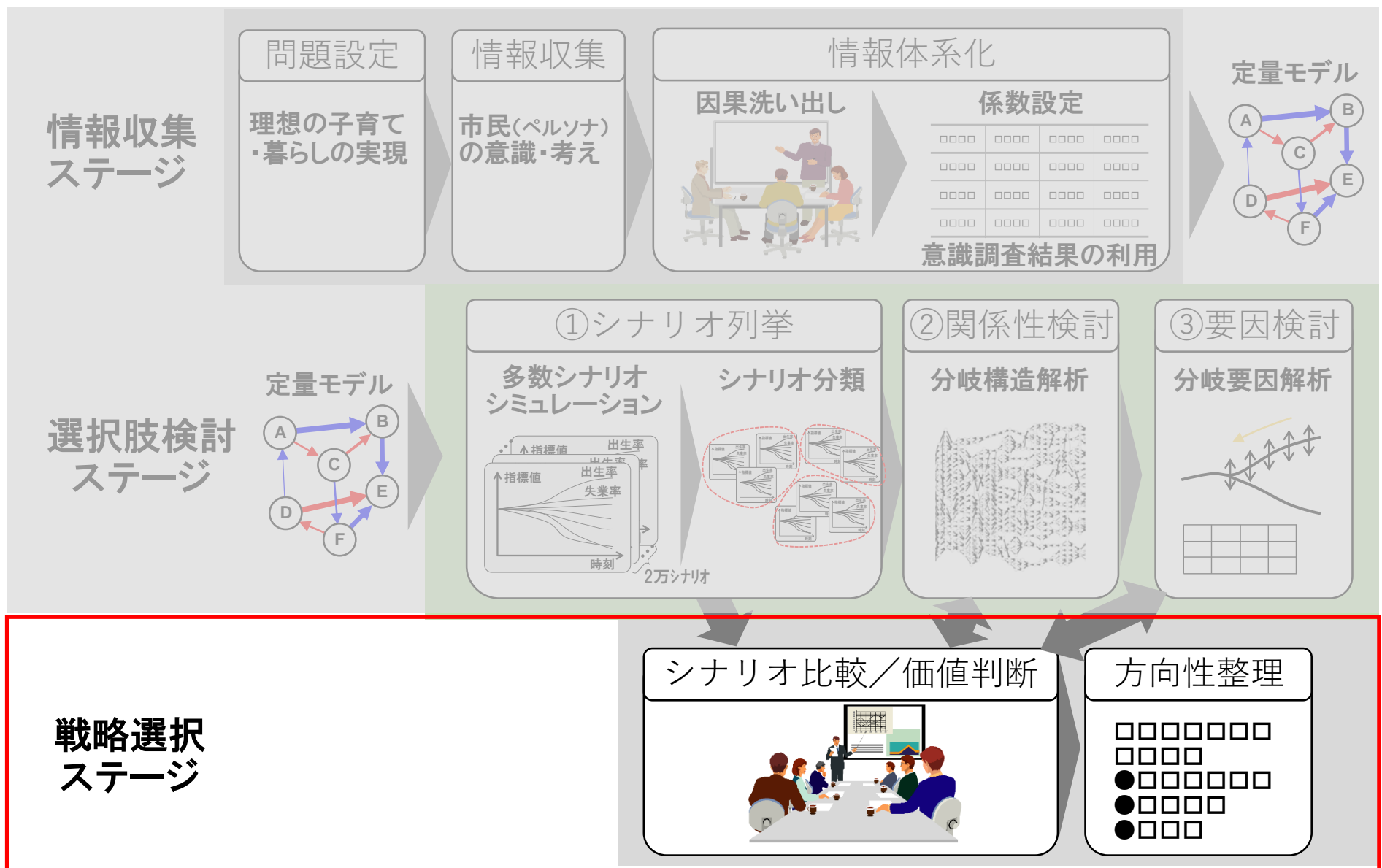
- 共働き世帯の増加
- 女性の給与改善
- サテライトオフィスの充実

○ 子育て環境の充実

- 男性の育児休業取得率の上昇に関する施策
- 仕事と家庭の両立

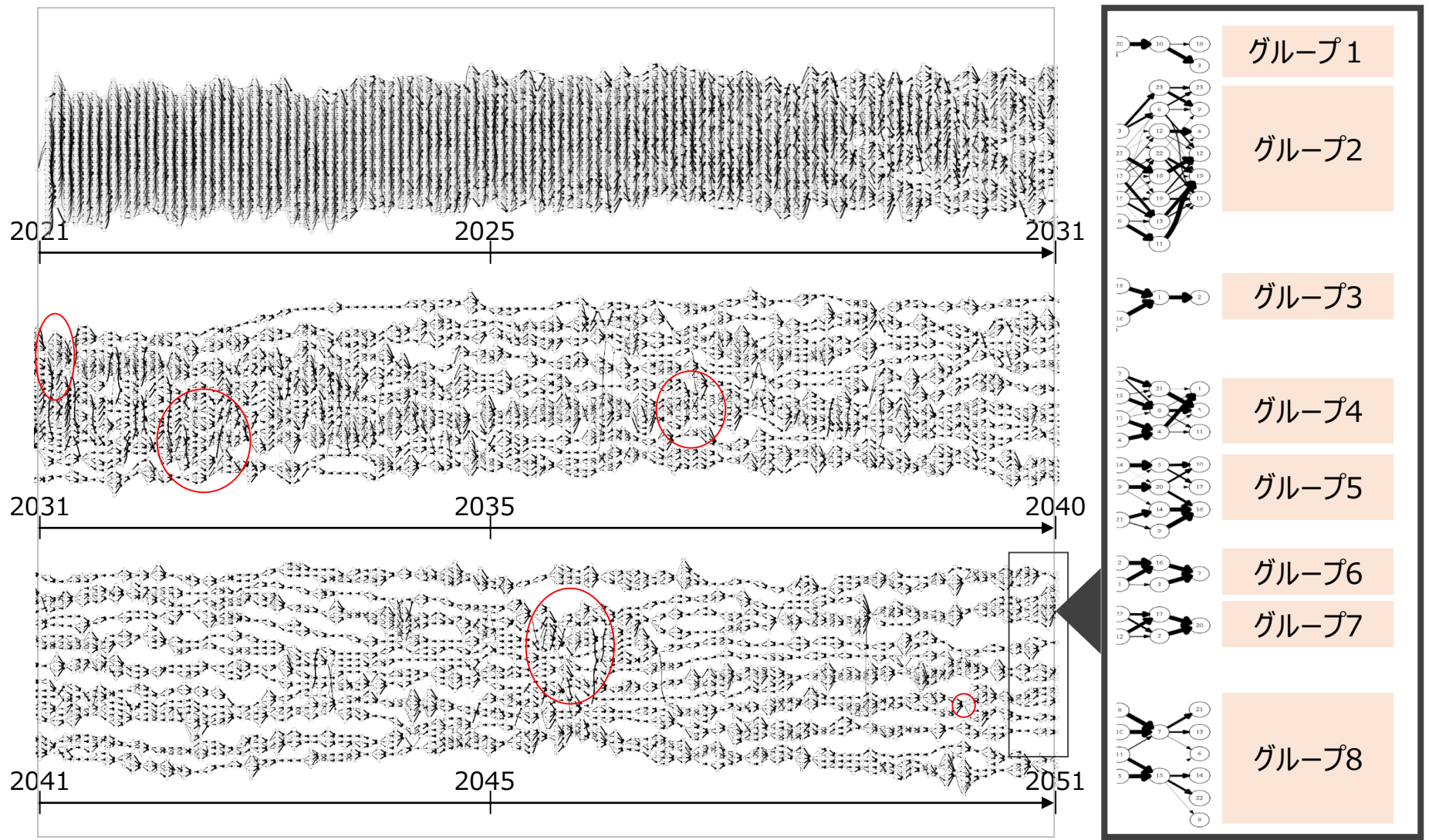
社会全体の分析においても、女性活躍や男性の育児参加などがポイントとなっている。

4-1 戦略選択ステージ



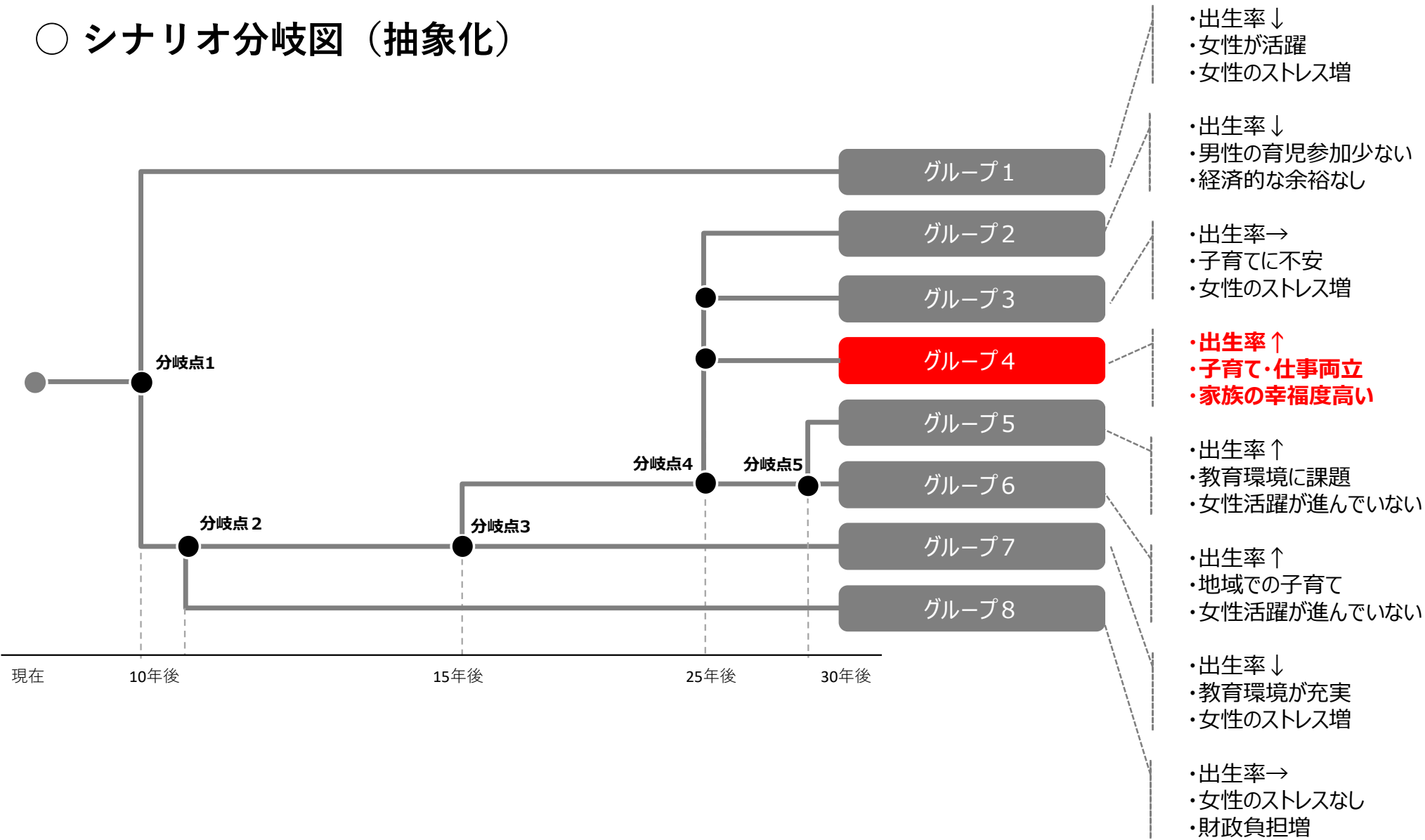
4-2 戦略選択ステージ 「分岐構造解析①」

○ 各シナリオグループの分岐箇所を時系列で解析



○ : シナリオが分岐している場所

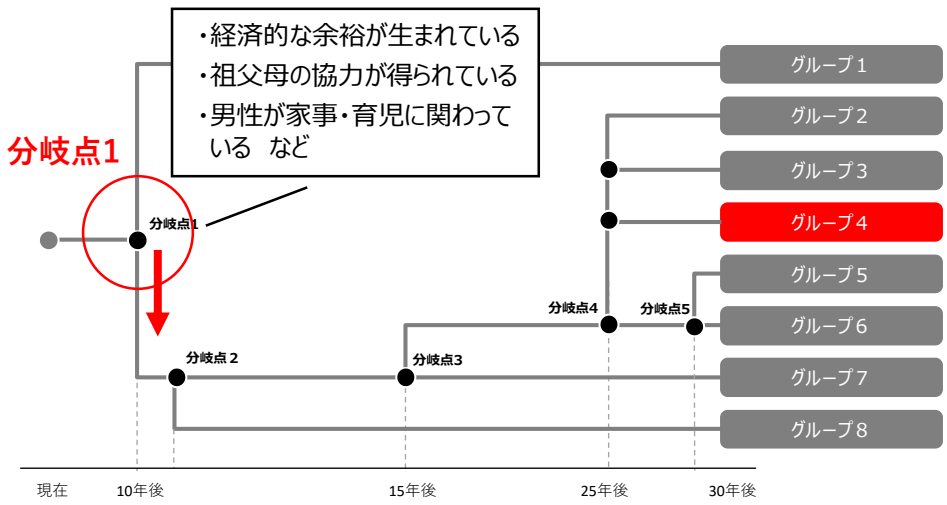
○ シナリオ分岐図（抽象化）



4-4 戦略選択ステージ 「分岐要因解析①」

○ 分岐点1～4の要因解析

- 各分岐点において分岐させる要因を整理
- 要因の中で寄与度の高いものを抽出し、グループ4へ導くための改善点を明らかにする。



【分岐点1】

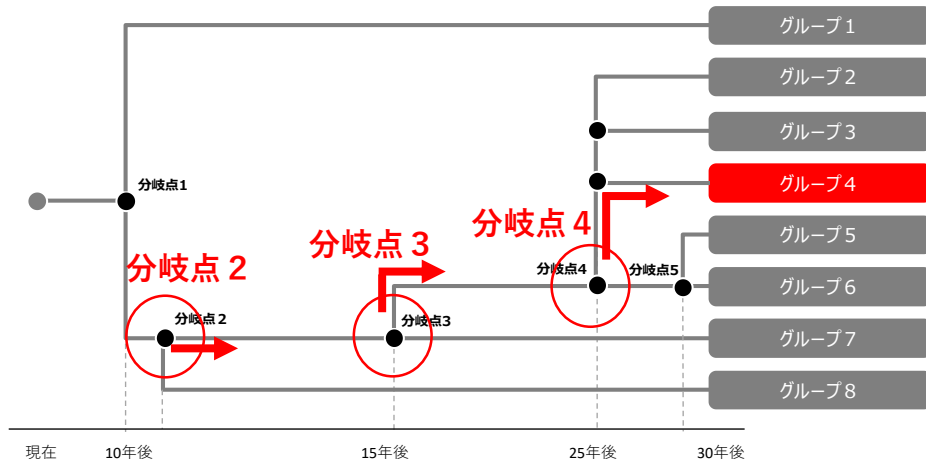
グループ2、3、4、5、6、7、8に導く要因の主なもの（上位15項目）

要因	寄与度
経済的な余裕	2.865677684
子ども同士の交流	2.556706403
祖父母の協力	2.542560667
祖父母との関係	2.369470341
自治会・地域行事への参加	2.362986165
父親の家事分担	2.193575195
時間的な余裕	2.09835869
父親の育児参加	2.041189274
配偶者の希望（子どもが欲しいか）	1.999826137
保育・学童保育の充実	1.84259318
世帯収入	1.811959887
子どもの見守り（地域）	1.753583411
地域の声かけの多さ	1.647009456
地域全体で子ども見守る文化・風土	1.565892242
祖父母との同居	1.50468438

↑ 高

→ 経済的な余裕、子育てへの祖父母や地域の協力、父親の育児参加など、**経済的な面や子育てサポート体制**に関する指標の寄与度が高い。

4-5 戦略選択ステージ 「分岐要因解析②」



【分岐点2】 グループ2～7に導く要因の主なもの（上位10項目）

要因	寄与度
理想の子どもの数	1.999937019
ストレス	1.485073415
祖父母の介護	1.438943179
子どもの健康	1.307732304
子どもがいきいきとしている	1.238827749
就労機会	1.164923431
(大人が) 子どもと関わる機会	1.107844507
子どもの学力	1.009779612
子供同伴で出勤	0.999998255
地域で子どもを育てる仕組み・コミュニティ	0.999997306

→ 女性のストレス、子どもの健やかな成長（健康、学力）など、**精神的な事柄**に関連する指標の寄与度が高い。

【分岐点3】 グループ2～6に導く要因の主なもの（上位10項目）

要因	寄与度
親子で参加できるイベント	3.221233721
文化施設、図書館	3.117321963
スポーツや勉強を教える場	2.330904278
子どもとの時間	2.275125049
スポーツ環境	2.046112973
理想の子どもの数	2.036433491
配偶者の希望（子どもが欲しいか）	2.017466747
ゲームのやりすぎ防止の仕組み	1.866144659
親の兄弟の数	1.807164717
仕事の忙しさ	1.569899972

→ **親子で楽しめる環境**（ソフト、ハード）などに関連する指標の寄与度が高い。

【分岐点4】 グループ4に導く要因の主なもの（上位10項目）

要因	寄与度
配偶者の希望（子どもが欲しいか）	1.902797999
就労時間	1.861247674
リラックス・趣味の時間	1.784735713
AIを使った学習環境	1.551863742
野菜が作れる庭、野菜作りの知識	1.347790522
経済的な余裕	1.339282958
祖父母の健康	1.289260147
時間外診療の充実	1.285609287
おいしい食事	1.161367597
子どもの医療費への補助・無償化	1.0931392

→ 就労時間、リラックス・趣味の時間など**仕事や生活の質**に関連する指標の寄与度が高い。

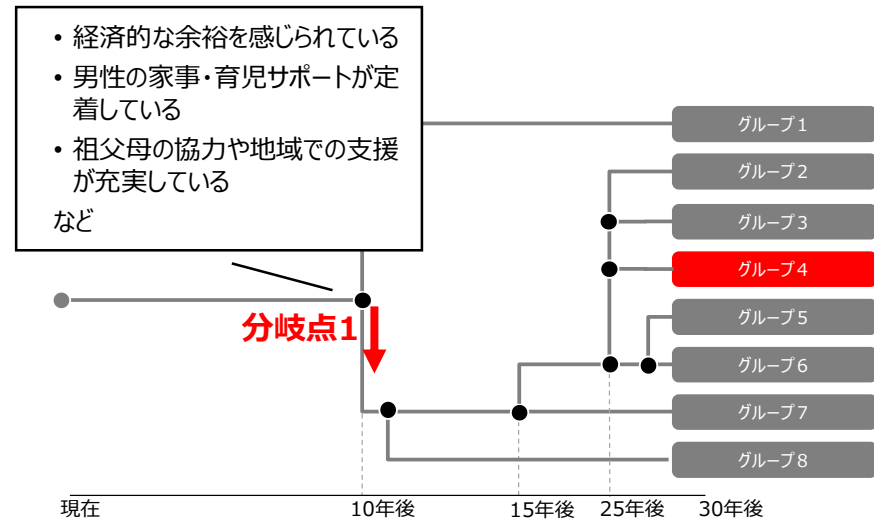
5-1 未来予測分析のまとめ①

- ペルソナにとって満足度の高い未来を実現するため、シナリオグループ4を基本シナリオとして設定
- グループ4へ導くためには、各分岐点までに次の点を現在よりも上昇・改善しておくことが必要

○ 分岐点1~2（短期）のポイント

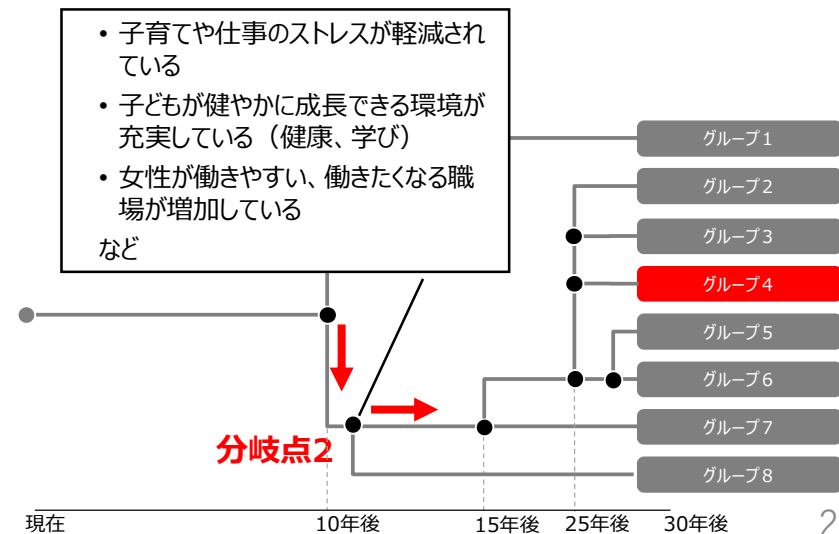
分岐点1

- 経済的な余裕の実感
- 男性の家事・育児サポート
- 三世代子育てや地域での子育て支援体制などを上昇・改善。



分岐点2

- 子育てや仕事のストレスの軽減
- 子どもが健やかに成長できる環境（健康や学び）
- 女性が働きやすい、働きたくなる職場などを上昇・改善。



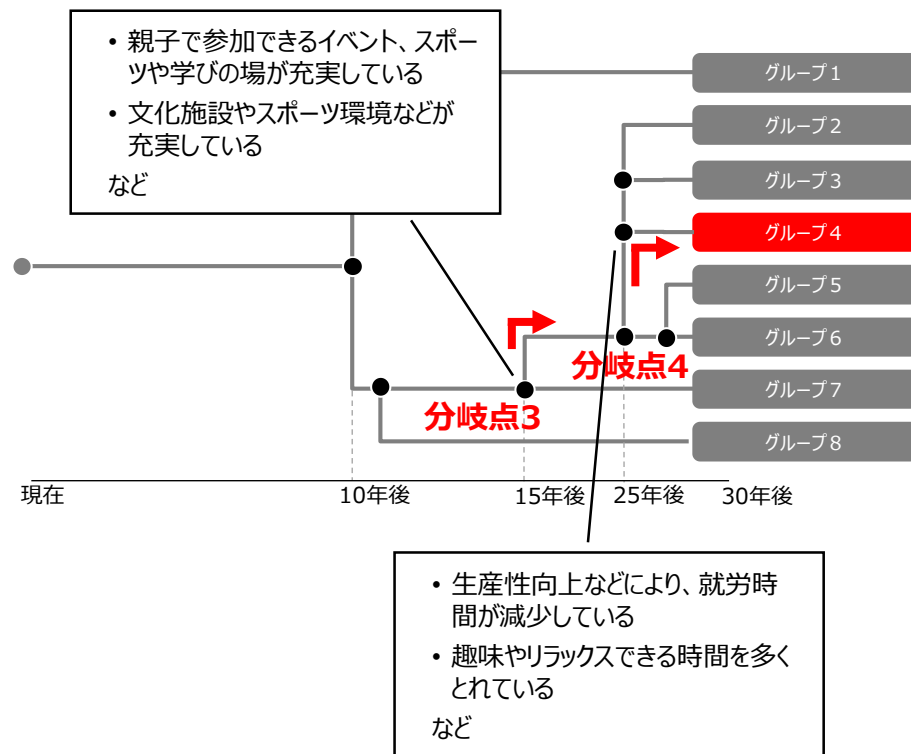
5-2 未来予測分析のまとめ②

○ 分岐点3（中期）のポイント

- ・ 親子で参加できるイベント、スポーツや学びの場（ソフト）
- ・ 文化施設、スポーツ環境（ハード）などを上昇・改善。

○ 分岐点4（長期）のポイント

- ・ 就労時間の減少（仕事の質の向上）
- ・ リラックス・趣味の時間の増加（生活の質の向上）などを上昇・改善。



- この未来予測分析は、現状を前提とした30年後に起こり得る最良と考えられる未来である。
- 福山みらい創造ビジョンにおける目標人口の達成（2040年）に向けて、人口減少対策の強化により各分岐点の達成時期を前倒しさせる必要がある。

5-3 未来予測分析を踏まえた方向性

AIの予測をもとに、子育て世代の最良な未来を実現



主なポイント

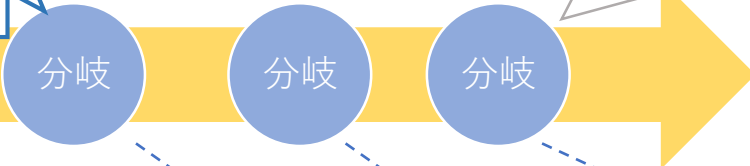
- ・ 経済的な余裕の実感
- ・ 男性の家事・育児サポートの定着
- ・ 三世代や地域での子育て支援体制の充実
- ・ 子育てや仕事のストレス軽減
- ・ 子どもが健やかに成長できる環境の充実
- ・ 女性が働きやすい、働きたくなる職場の増加

主なポイント

親子で楽しめる環境が充実 (イベント、文化施設、スポーツ環境)

主なポイント

仕事と生活が共に充実



30年後

理想の子どもの数の
上昇・実現
満足度の高い子育て
と働き方の実現

現在

2025

10年後

15年後

25年後

10年後の分岐までに必要なポイントを達成するため

取組を強化 (人口減少対策アクションプラン)

- 男性の育児参加促進
- 三世代や地域における子育て支援の充実
- 経済面の不安の解消
- など

各分岐点から予測される他の未来の特徴

- 女性の活躍が少ない (グループ2、5、6へ)
- プライベートの幸福度が低い (グループ3へ)
- 仕事に疲弊、親子の関係が悪化 (グループ7へ)
- 出生率が上がらない (グループ1、8へ)

5-4 未来予測分析の注意点・今後の課題

- シナリオ全体を通じて「仕事でのしあわせ」が良好であるようなシナリオがあまり見られない。これは、福山市に住む女性は未来のライフコースを考える際に仕事で幸せを感じられるような選択肢が少ない、と解釈することもできる（「仕事のスキル向上」が良くなるのはグループ1、3、4）。
- 今回の未来予測分析は、「現状を前提とした上での未来のライフコースの選択肢」を表したもので、相対的にはグループ4が良好だが、必ずしもベストではない。
- これまでに行われてこなかった新たな政策（＝女性（ひいては男性）が仕事と子育てを両立しやすく、仕事でも活躍できるような環境整備）を今後進めることで、「仕事か結婚・子育てか」がトレードオフになりがちな現状を改善し、win-winの選択肢が可能になり（出生率も改善し幸福度も高まる）、未来の選択肢の幅が広がる。
- 未来予測分析のシナリオの中で、相対的にどれが望ましいかをまとめると同時に、新たな政策を考えることで、**今回の未来予測分析のシナリオを上回る新たな未来を実現することが可能になる**（「×」「△」→「○」へ）。
- また、今回の分析は重点ペルソナである「子育て共働き女性」を対象としているが、短期達成ポイントである「経済的な余裕の実感」や「女性が働きやすい環境の増加」などを実現することによって、「**経済的な理由で結婚に踏み切れない若者**」への**好影響**も考えられ、幅広くその効果を認識することも重要である。

グループ4の未来予測

	①環境	②保育・教育	③健康	④家族	⑤人間関係・地域	⑥仕事	⑦生活	⑧行政	シナリオグループの特徴	出生数／一人
グループ4	△	△	△	○	○	△	○	○	【子育て環境】男性が育児参加しやすい環境が整い、父親の育児参加が進んでいる。近所付き合いを含め地域全体で子どもを育てる風土が向上。母親のリフレッシュにつながっている。 【仕事】仕事のスキルが向上し、就労時間が抑えられている。生活への不安はない。 【幸福度】家族と過ごす幸福度は高い。仕事や非日常・趣味の幸福度はやや低い。リフレッシュはできている。 【財政負担】変化ない。	↗